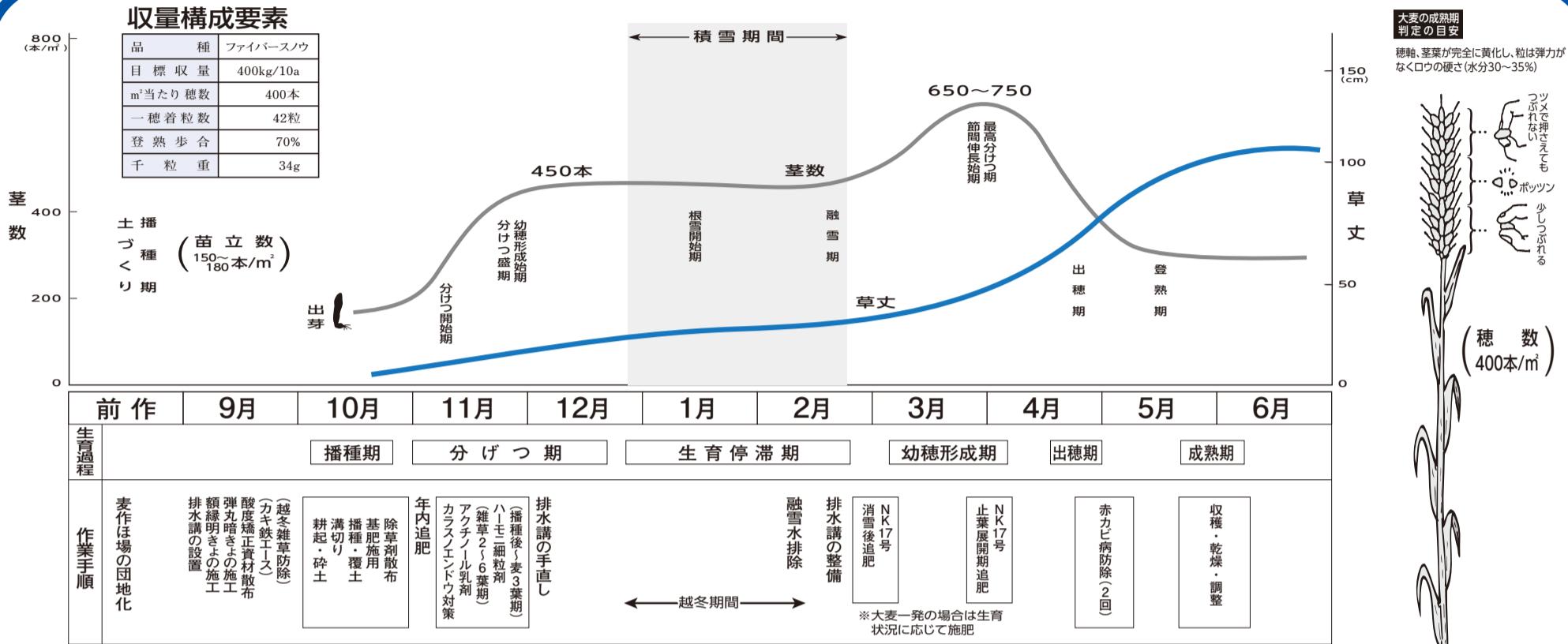


平成30年産

大麦栽培ごよみ

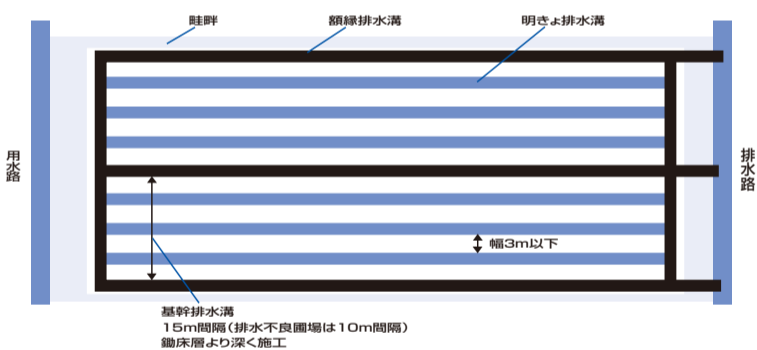
良質麦の生産をめざして



① 排水対策

- ・稲刈り後、速やかに明きよを掘り、圃場の排水に努める。
- ・排水不良田では、弾丸暗渠やサブソイラーを施工し、土壌の排水性を向上させる。
- ・トレンチャー等による額縁排水溝を設置し、各排水溝を連結する。
- ・排水路への排水口の切り下げを行う。
- ・根雪前と融雪時は排水溝の手直しを行い、排水に努める。

図 排水路の施工例



② 越冬雑草対策(スズメノカタビラ、スズメノテップウ等)

- ・雑草の多い圃場では耕起前に、プリプロックスL10を水100ℓに溶かし散布する。

③ 耕起・砕土

- ・耕起の深さ12~15cmを確保する。
- ・砕土を良くするため、トラクターの速度を低速にし、ロータリーの回転数を上げる。

④ 溝切り

- ・畝巾を3~5m間隔(播種巾を考慮し、畝巾を決定する)とし、溝巾は30cm以上で特に圃場の周辺は広く深くする。
- ・大型圃場では排水口を2~3ヶ所設け、表面水の早期排除に努める。

⑤ 種子消毒

- ・黒穂病と雲形病を防除するため必ず種子消毒を実施する。

薬剤名	使用量
ベンレート水和剤	種子1kg当たり5g

⑥ 播種

- ・土壌水分等のほ場条件が悪い時に、無理に播種しないこと。
- ・出芽、生育を統一にし、収量、品質を向上させるためにはスジ播種が望ましい。
- ・10月中旬(10月10日~20日)を中心とした播種の徹底。
早い播種→生育過剰、穂数増加による細麦化
遅い播種→生育量不足、穂数不足による収量低下

播種方法	播種時期	播種量(10a)	備考
スジ播	10月10日~10月25日	6~7kg	播種後に覆土3cm前後となるようにロータリー耕を行う。
バラ播		8~10kg	

⑦ 施肥基準

- ・**酸度矯正** 大麦の最適pH6.0~6.5を目標に、酸度矯正を行う。

施肥名称	資材名	施用時期	施用量(10a)
酸度矯正	カキ鉄エース	播種前	100kg

・基肥一発体系

施用時期	施肥名	資材名	施用量(10a)	備考
播種時	基肥	大麦一発くんN35	40kg	
2月下旬~4月上旬	追肥	NK17号	6~12kg	生育状況に応じて、施用時期と施用量を調整する。

・分施肥体系

施用時期	施肥名	資材名	施用量(10a)	備考
播種時	基肥	韓国化成444	40kg	地力に応じて、施用量を調整する。
11月中旬~下旬(播種後約1ヶ月後)	年内追肥	硫安	10kg	年内の生育量(有効茎数)を確保するため、葉が黄化する前に追肥。野菜跡等で生育が旺盛な場合は施用しない。
2月下旬~3月上旬(平均気温5℃以上)	越冬後追肥	NK17号	25kg	越冬後の生育を促進・増大し、穂数増の効果が高い。
4月上旬(出穂10日前頃)	止葉展開期追肥	NK17号	10kg	粒厚や千粒重の増加に効果がある。施用が遅れると精麦品質低下を招くため、遅れずに施用する。

⑧ 除草剤散布

- ・播種後土壌処理(覆土をしない表面播きの場合は、薬害発生しやすいため散布しない。)

薬剤名	散布時期	施用量	備考
トレファンサイド粒剤2.5	播種後、出芽前	4~5kg	播種後から出芽前までの間(約1週間)に処理する。
キックボクサー細粒剤F	播種後、出芽前	3~4kg	

- ・**生育期処理** ハーモニー細粒剤Fとハーモニー75DF水和剤は、どちらか1回しか使用できません。

薬剤名	散布時期	施用量	備考
ハーモニー細粒剤F	播種後~麦3葉期	4~5kg	雑草発生前~発生初期
ハーモニー75DF水和剤	麦1葉期~節間伸長期	5~10g/100ℓ	スズメノテップウ5葉期まで。
アクチノール乳剤	雑草生育初期(穂ばらみ期まで)	200ml/100ℓ	2~3葉期のカラスノエンドウ等の広葉雑草対象。使用回数2回まで。

・畦畔除草

薬剤名	10a当り散布量	希釈液	使用限度回数	備考
ラウンドアップマックスロード	希釈液50ℓ	水50ℓに薬量500mℓ	3回以内	収穫前日まで
タッチダウンIQ				収穫7日前まで
バスタ液剤	希釈液100ℓ	水100ℓに薬量500mℓ	3回以内	収穫7日前まで

⑨ 病虫害防除

対象病害	防除時期	薬剤名
赤かび病	第1回 出穂3~5日後 (無人ヘリ)	トップジンMゾル
	第2回 1回目の1週間後 (無人ヘリ)	チルト乳剤

⑩ 収穫・乾燥・調整

- ・刈取は、穂軸、茎葉が完全に黄化し、子実の硬さがロウ状で、穀粒水分30%以下で行う。
- ・刈取後2時間以内に乾燥機に張込むこと。

栽培上の要点

- ・麦は湿害に極めて弱いので、常に圃場の排水につとめ、乾田化をはかること。
- ・基肥一発肥料を使用する場合は、適期播種(10月中旬)に努めましょう。
- ・エンバク跡に麦を播種しないこと。
- ・麦跡圃場は夏場の畑地化により地力窒素の消耗が激しいため、必ず緑肥または土づくり資材を散布しましょう。